

山形・上高田遺跡

かみたかだ

- 1 所在地 山形県飽海郡遊佐町大字富岡字上家ノ前
- 2 調査期間 第二次調査 一九九六年(平8)五月～九月
- 3 発掘機関 (財)山形県埋蔵文化財センター
- 4 調査担当者 齋藤 健・飯塚 稔
- 5 遺跡の種類 集落跡・河川跡
- 6 遺跡の年代 平安時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



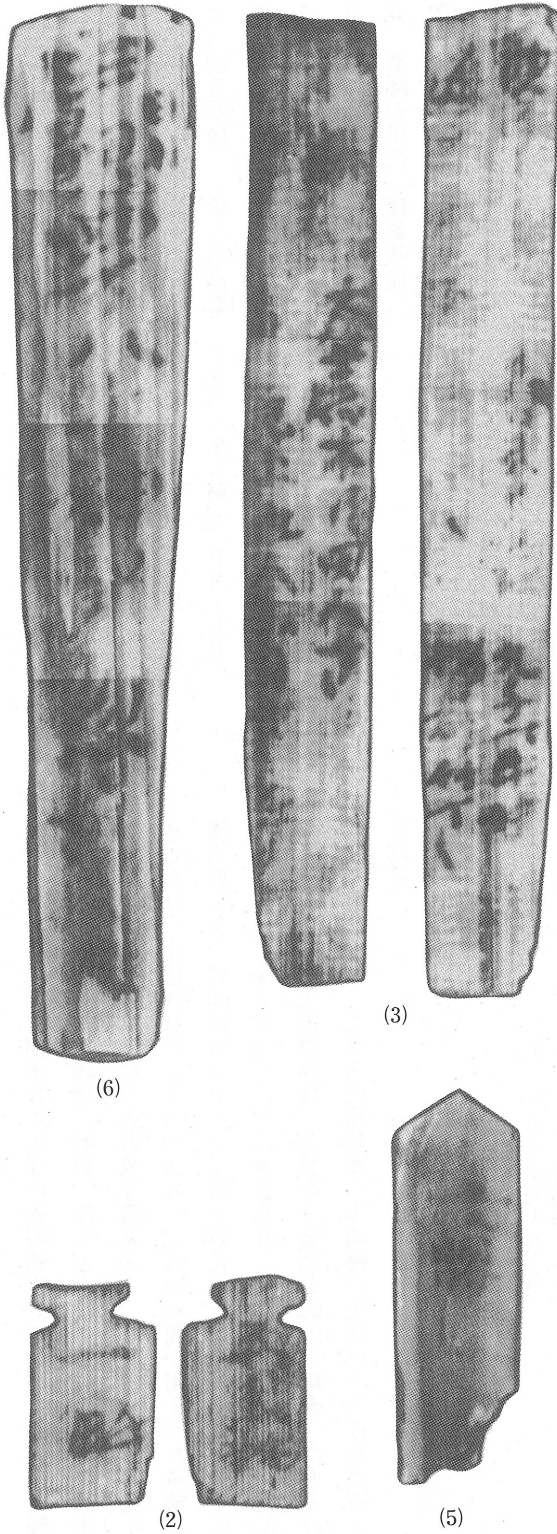
上高田遺跡は県の北西端、秋田県境の遊佐町にあり、古代出羽国府比定地、城輪柵跡の北約6kmに位置する。周囲は、月光川、庄内

高瀬川などにより形成された沖積平野で、遺跡は自然堤防上の微高地に立地する。一九九四年に圃場整備事業関連による第一次調査が行なわれ、幅一三～一五m、深さ二mに及ぶ河川跡が検出され、九～一〇世紀の所産とみられる須恵器、赤焼

土器(土師質土器)、黒色土器や、木製品が大量に出土した。一九九六年度には、国道三四五号線改修工事による第二次調査が実施され、第一次調査で検出された河川跡の続きが確認され、同じ時期の遺物が大量に出土している。その中に木簡五点、人形四点、赤焼土器の甕に四面の人面が描かれた人面墨書土器一点が含まれている。また第一次・第二次調査では大量の墨書土器が河川跡から出土している。最も数が多いのが「宅」「利」である。他に「花」「真」「竟」「山本」「真宅」「宅竟」「物部」などがみられる。

8 木簡の积文・内容

- (1) 「>畔越」
133×29×5 033
- (2) 「<万カ」
「<継」
61.5×30×3.8 032
- (3) 「<一斛」
「□□春」
「□□木」
「□□田人万呂」
「已上九人三月□日」
丸子マ牛甘
福前竹万呂
(267)×34×3 019
- (4) 「(符録)」
249×33×8 061
- (5) 「(符録)」
(108)×32×6 061



(6) 「符籙」 四万八千神宅急々如律令」 287×46×7 0.1

(1)は上部の切り込みの両端が欠損している。(2)は〇三三型式の下端部を切り取った可能性もある。(3)は表に六人、裏に三人の名を記しているものと推定される。(4)(5)は共伴出土したもの。(5)の下半は欠損。ともに齋串の形状を呈し、同内容の符籙が記されている。(6)は上部より下部の幅が狭い笏状を呈する。

木簡の釈文については、国立歴史民俗博物館の平川南氏からご教示を得た。

9 関係文献

本遺跡の報告書については、一九九七年度に調査予定の第三次調査分と併せて同年度に発行予定。

(齋藤 健)

S=1/2